

別冊資料-2

「資料-4 液状化の検証」 の詳細データ

- ・簡易法詳細結果
- ・地震応答解析詳細結果

簡易法詳細結果

検討結果の詳細

- 手法：簡易法による液状化判定
- 基準：「建築基礎構造設計指針」（日本建築学会：2001年10月）

地点名：旭市役所
再現：旭余震NS(M7.7, 221gal)

PL = 1.4 Dcy(建築指針) = 1.6 cm Dcy(高圧ガス指針) = 4.2 cm

地点名	地震計位置:旭市役所_中央防犯ポンプ室	P1値	1.37	地下水位面	1.85(m)
基準名	建築基礎構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 同左	
判定方法	地表面設計用水平加速度と、実測S波	土の単位体積重量	20.0 (kN/m ³)		
Re>0.05の取扱い	△σ<11一定とする	設計加速度	221.00 (gal)		
		マクニシムード	7.7		
		地表面位(100%)	1.08 (cm)		

土質条件										地表面位									
層	厚	土質	単位体積重量	液状化	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度
1	0.5	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
2	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
3	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
4	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
5	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
6	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
7	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
8	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
9	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
10	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

地点名：飯岡支所
再現：飯岡余震NS(M7.7, 265gal)

PL = 0.2 Dcy(建築指針) = 0.7 cm Dcy(高圧ガス指針) = 2.0 cm

地点名	地震計位置:飯岡支所	P1値	0.17	地下水位面	1.10(m)
基準名	建築基礎構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 同左	
判定方法	地表面設計用水平加速度と、実測S波	土の単位体積重量	20.0 (kN/m ³)		
Re>0.05の取扱い	△σ<11一定とする	設計加速度	265.00 (gal)		
		マクニシムード	7.7		
		地表面位(100%)	0.88 (cm)		

土質条件										地表面位									
層	厚	土質	単位体積重量	液状化	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度
1	0.5	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
2	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
3	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
4	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
5	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
6	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
7	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
8	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
9	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
10	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

地点名：海上支所
再現：海上余震EW(M7.7, 206gal)

PL = 0.0 Dcy(建築指針) = 0.0 cm Dcy(高圧ガス指針) = 0.0 cm

地点名	地震計位置:海上支所	P1値	0.00	地下水位面	0.00(m)
基準名	建築基礎構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 同左	
判定方法	地表面設計用水平加速度と、実測S波	土の単位体積重量	20.0 (kN/m ³)		
Re>0.05の取扱い	△σ<11一定とする	設計加速度	206.00 (gal)		
		マクニシムード	7.7		
		地表面位(100%)	0.00 (cm)		

土質条件										地表面位									
層	厚	土質	単位体積重量	液状化	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度
1	0.5	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
2	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
3	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
4	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
5	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
6	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
7	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
8	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
9	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
10	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

地点名：干潟支所
再現：干潟本震EW(M9.0, 287gal)

PL = 8.1 Dcy(建築指針) = 1.9 cm Dcy(高圧ガス指針) = 4.3 cm

地点名	地震計位置:干潟支所	P1値	8.1	地下水位面	0.00(m)
基準名	建築基礎構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 同左	
判定方法	地表面設計用水平加速度と、実測S波	土の単位体積重量	20.0 (kN/m ³)		
Re>0.05の取扱い	△σ<11一定とする	設計加速度	287.00 (gal)		
		マクニシムード	7.7		
		地表面位(100%)	0.00 (cm)		

土質条件										地表面位									
層	厚	土質	単位体積重量	液状化	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度	設計加速度
1	0.5	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
2	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
3	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
4	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
5	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
6	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
7	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
8	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
9	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
10	1.0	砂質土	1.8	1.30	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

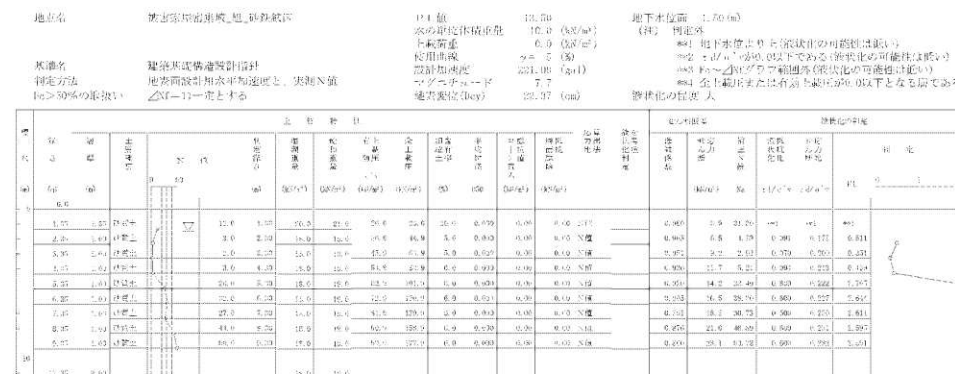
地点名：旭中央病院
再 現：旭余震NS(M7. 7, 221gal)

PL = 4. 4 Dcy(建築指針) = 1. 9 cm Dcy(高圧ガス指針) = 4. 6 cm



地点名：日の出保育所
再 現：旭余震NS(M7. 7, 221gal)

PL = 13. 5 Dcy(建築指針) = 22. 5 cm Dcy(高圧ガス指針) = 8. 5 cm



地点名：津波避難タワー
再 現：飯岡余震EW(M7. 7, 265gal)

PL = 19. 8 Dcy(建築指針) = 20. 7 cm Dcy(高圧ガス指針) = 17. 6 cm



地点名：HB-S-1
再 現：海上余震EW(M7. 7, 206gal)

PL = 3. 1 Dcy(建築指針) = 4. 1 cm Dcy(高圧ガス指針) = 5. 1 cm



再現：海上余震EW(M7.7, 206gal)

PL = 17.7 Dcy (建築指針) = 31.2 cm Dcy (高圧ガス指針) = 11.6 cm

再 現：海上余震EW(M7.7, 206gal)

PL = 13.2 Dcy (建築指針) = 23.4 cm Dcy (高圧ガス指針) = 13.9 cm

地点名	H-1	P.L.値 水の表面水位高さ	17.71 10.0 (k/m ²)	地下水深度 1.90(m) 判定外
取掘方法	建築基礎構造物設計参照	土壌調査 使用圧力 浸透計加圧量	0.0 (kg/cm ²) $\gamma = 5$ (t/m ³) 266.0 (g/cm ²)	① 地下水より土の浸透性の可能性は低い ② $\alpha \leq 0.2$ のみ以下である(浸透性の可能性は低い)
判定方法	地中面設計用水を不飽和度と、天然N値 ③ ($\gamma - 1$)一定とする	マクニツクス・モード 地盤強度(Tkv)	7.7 27.20 (t/m ²)	③ $\alpha > 0.2$ の場合以外(浸透性の可能性は低い) ④ 全土質に適用には有効と認められ、0.2以下となる部である
$\alpha > 0.2$ 時の取扱				浸透性の低度大

区	市	町	二級河川 河川名称	河川 名称	二級河川					河川利用状況					河川利用状況																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称	河川 名称

再 現：海上余震EW (M7.7, 206gal)

PL = 14.5 Dcy (建築指針) = 26.6 cm Dcy (高圧ガス指針) = 10.8 cm

[illegible][illegible]

再 現：海上余震EW(M7.7, 206gal)

PL = 5.8 Dcy(建築指針) = 5.7 cm Dcy(高圧ガス指針) = 6.0 cm

地蔵名	(K-1)	江戸堀	5.54	地下水位高 (0.97 (m))
		木の甲の体積値	10.0 (g/air)	(7日) 測定値
		土壌含水	0.0 (30/air)	a1 地下水位より上(根圏帯)の可能な値は0
沢田名	陸奥国盛岡市院野村	田畑面積	7 = 6 (a)	a2 地下水より上(根圏帯)の可能な値は0
樹木名	東北道盛岡市院野村	樹木体積値	208 (a)	a3 0 = 0 (30/air) 根圏帯の可能な値は0
樹木の深さ	東北道盛岡市院野村	根の深さ (m)	0.5 (a)	a4 全土壌深さは根の土壌深さ(0.5)よりとなる値である
Fe の60%の重量比	$\Delta Fe = 11$ 土と水	地質調査 (100)	5.75 (a)	根圏帯の深度 (0)

[illegible]

再現：飯岡余震NS (M7.7, 265gal)

PL = 11.5 Dcy (建築指針) = 15.2 cm Dcy (高圧ガス指針) = 7.0 cm

建造者	国土庁	11.51	地下水位 2.50 (m)
	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 測定済
	土の単位体積重量	9.0 (kN/m ³)	※1 地下水位より上(表水位の可成り変動あり)
	使用面積	7 = 5 (畝)	※2 $\sigma_{\text{sat}}/\sigma_{\text{sat}}^0$ の0.6以下である(浸透性の可能性は低い)
調査者	建築基礎構造設計設計	285.00 (mm)	※3 $\rho_{\text{sat}}/\rho_{\text{sat}}^0$ の0.75以下である(浸透性の可能性は低い)
判定方法	地表面照射用水平加速度計・実測記録	7 = 7 (mm)	※4 全土圧降下または有効土圧降下0.6以下とならざる限りである
	$\Delta \sigma_{\text{sat}} = 11$ 一定とする	13.82 (mm)	
	地表変位 (mm)		

[illegible]

再 現：旭余震NS (M7.7, 221gal)

PL = 0.9 Dcy (建築指針) = 1.5 cm Dcy (高圧ガス指針) = 2.5 cm

地質名	MR=	戸土質 水の平均飽和度 土層質量 使用曲率 設計加速度 ポアソン係数 地圧定位置 (kg)	0.85 10.0 (kg/m ³) 10.0 (kg/m ³) $\gamma = 5$ (g) 22.0 (m/s) 0.3 0.15 (cm)	地下水位高 (m) (注) 管外 管外 地下水位より土層液化の可成性は低い 982 20/0.05以下である (設計時の可成性は低い) 983 Re=2.0以下 (箱内圧定位置の可成性は低い) 984 土圧定位置または有効土圧定位置0.0以下となる層である
要件名	建築基礎構造設計指針	地表面設計地水平距離と、矢列に於 て50%の取扱い		液状化の位置 概算

[illegible]

再 現：飯岡余震NS (M7.7, 265gal)

PL = 5.9 Dcy (建築指針) = 7.6 cm Dcy (高圧ガス指針) = 3.4 cm

地盤名	旧2	P1層	5.0m	地下水位深 2.50(m)
		水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 関係なし
		土敷重量	0.0 (kN/m ²)	※1 地下水位より土中飽和化の可能性は低い。
		皮面曲率	γ=5 (%)	※2 γ=4, γ=5, 0以下である仮定化の可能性は低い。
地盤名	盤橋川堤内面設計地盤	設計の沖深	25.00 (m)	※3 γ<4, γ>5の範囲で仮定化の可能性は低い。
検定方法	断面計測調査断面平均曲率と、実測に補	マニキュラード	7.0%	※4 土中飽和または有効土敷より0.0以下となる層である
検定率	δ _{max} =11 先とする	最大変位 (mm)	8.2 (mm)	設計土中の検定値

[illegible]

再 現：旭余震NS(M7.7, 221gal)

PL = 3.0 Dcy(建築指針) = 6.9 cm Dcy(高圧ガス指針) = 3.9 cm

題名	JG-S-1	P.L値 木の単位体積質量 土の単位体積質量 土の飽和度 使用曲線 設計加圧力 ポアズニューマータ 透気係数(α _v)	0.99 0.0 (kg/m³) 0.0 (kg/m³) — S (5%) 22.60 (kN) 7.7 6.34 (μm)	地下水位高 1.70(m) (負) (内径) ※1 地下水位より上・浸透化の可能性は低い ※2 2.0m以下である浸透化の可能性は低い ※3 3.0m以下かつ範囲外(浸透化の可能性は低い) ※4 本工種または有等上表が、0.0以下の場合はある浸透化の要素とす
著者名	建築基礎構造設計資料			
調査方法	地表面設計用水平距離と、実測X低 L=50%のR値			

[illegible]

地点名：NH-S-1
再 現：旭余震NS (M7. 7, 221gal)

PL = 0.5 Dcy (建築指針) = 4.2 cm Dcy (高压ガス指針) = 3.3 cm

地点名	NH-S-1	PL値	0.47	地下水位面	1.91 (9)
基準名	建築基準構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 同定外	
判定方法	地表面設計用水平加速度と、実測地震	土震動係数	0.0 (kN/m ²)	※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)	
Fe>50%の取扱い	△N=1一定とする	使用地盤	γ = 5 (G)	※2 2.0/a < γ/0.01以下である(液状化の可能性は低い)	
		設計加速度	225.00 (gal)	※3 Fe<2.0/aグラフ範囲外(液状化の可能性は低い)	
		マシニングモード	7.7	※4 全土蔵圧または有効土蔵圧が0.0以下となる層である	
		地盤変位 (Dcy)	4.14 (cm)	液状化の程度 程度	

地点名：AH-1
再 現：旭余震NS (M7. 7, 221gal)

PL = 3.2 Dcy (建築指針) = 2.4 cm Dcy (高压ガス指針) = 4.8 cm

地点名	AH-1	PL値	3.16	地下水位面	1.05 (9)
基準名	建築基準構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 同定外	
判定方法	地表面設計用水平加速度と、実測地震	土震動係数	0.0 (kN/m ²)	※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)	
Fe>50%の取扱い	△N=1一定とする	使用地盤	γ = 5 (G)	※2 2.0/a < γ/0.01以下である(液状化の可能性は低い)	
		設計加速度	225.00 (gal)	※3 Fe<2.0/aグラフ範囲外(液状化の可能性は低い)	
		マシニングモード	7.7	※4 全土蔵圧または有効土蔵圧が0.0以下となる層である	
		地盤変位 (Dcy)	2.50 (cm)	液状化の程度 程度	

地点名：SN-S-1
再 現：飯岡余震NS (M7. 7, 265gal)

PL = 6.6 Dcy (建築指針) = 20.4 cm Dcy (高压ガス指針) = 9.6 cm

地点名	SN-S-1	PL値	6.61	地下水位面	1.29 (9)
基準名	建築基準構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 同定外	
判定方法	地表面設計用水平加速度と、実測地震	土震動係数	0.0 (kN/m ²)	※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)	
Fe>50%の取扱い	△N=1一定とする	使用地盤	γ = 5 (G)	※2 2.0/a < γ/0.01以下である(液状化の可能性は低い)	
		設計加速度	225.00 (gal)	※3 Fe<2.0/aグラフ範囲外(液状化の可能性は低い)	
		マシニングモード	7.7	※4 全土蔵圧または有効土蔵圧が0.0以下となる層である	
		地盤変位 (Dcy)	20.00 (cm)	液状化の程度 中	

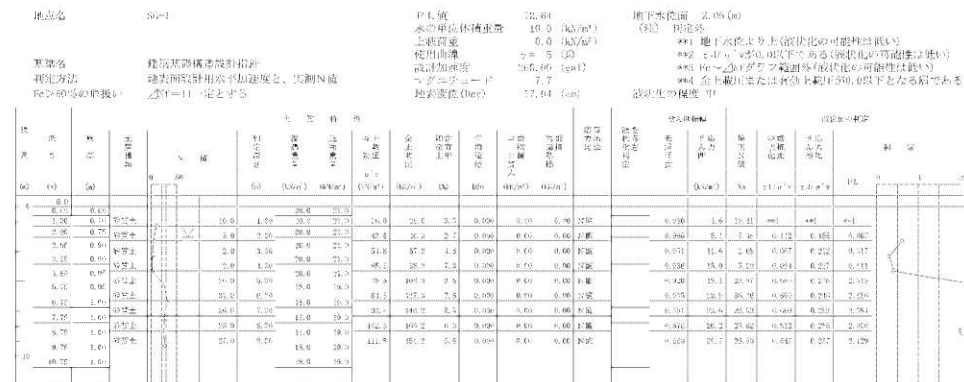
地点名：SN-S-2
再 現：飯岡余震NS (M7. 7, 265gal)

PL = 6.7 Dcy (建築指針) = 2.4 cm Dcy (高压ガス指針) = 9.2 cm

地点名	SN-S-2	PL値	6.65	地下水位面	1.43 (9)
基準名	建築基準構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 同定外	
判定方法	地表面設計用水平加速度と、実測地震	土震動係数	0.0 (kN/m ²)	※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)	
Fe>50%の取扱い	△N=1一定とする	使用地盤	γ = 5 (G)	※2 2.0/a < γ/0.01以下である(液状化の可能性は低い)	
		設計加速度	225.00 (gal)	※3 Fe<2.0/aグラフ範囲外(液状化の可能性は低い)	
		マシニングモード	7.7	※4 全土蔵圧または有効土蔵圧が0.0以下となる層である	
		地盤変位 (Dcy)	1.88 (cm)	液状化の程度 程度	

地点名：SG-1
再 現：飯岡余震NS(M7. 7.265gal)

PL = 12.6 Dcy(建築指針)= 18.5 cm Dcy(高压ガス指針)= 8.1 cm



地点名：SG-2
再 現：飯岡余震NS(M7. 7.265gal)

PL = 2.5 Dcy(建築指針)= 2.4 cm Dcy(高压ガス指針)= 3.1 cm



地点名：HG-S-1
再 現：新潟地震EW(M9. 0.287gal)

PL = 21.5 Dcy(建築指針)= 9.9 cm Dcy(高压ガス指針)= 17.2 cm



応答解析詳細結果

■手法：地震応答解析FDELによる液状化判定（タイプ2：基盤波形（引き戻し結果））

■基準：「建築基礎構造設計指針」（日本建築学会：2001年10月）

地点名：旭市役所
基盤に与える波形：M 7.7, $\alpha_{max}=179gal$
旭余震NS基盤波形引き戻し

PL = 0.9 Dcy(建築指針) = 1.4 cm Dcy(高圧ガス指針) = 3.5 cm

地点名	旭市役所	地震計位置	旭市役所・中央ポンプ場	PL値	0.875	せん断応力：判定深さが含まれる層（中心）の値（注）	判定外
入力波名	ASAHI-γNS-base	地盤情報	地盤情報	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	※1 地下水位より上（液状化の可能性は低い）	
基準名	建築基礎構造設計指針	地盤情報	地盤情報	土の単位体積重量	18.0 (kN/m ³)	※2 γ_d/γ_s が0.0以下である（液状化の可能性は低い）	
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	地盤情報	地盤情報	土の単位体積重量	18.0 (kN/m ³)	※3 γ_d/γ_s が0.0以下である（液状化の可能性は低い）	
	γ_d/γ_s の取得、 $\gamma_d/\gamma_s=1.1$ 一定とする	地盤情報	地盤情報	土の単位体積重量	18.0 (kN/m ³)	※4 全土層にまたは有効土層に0.0以下となる層である	
		地盤情報	地盤情報	土の単位体積重量	18.0 (kN/m ³)	地下水位面	1.85 (m)

層	深さ (m)	土質	地盤情報	せん断応力 (kN/m ²)	判定
0	0.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
1	1.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
2	2.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
3	3.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
4	4.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
5	5.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
6	6.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
7	7.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
8	8.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
9	9.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
10	10.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
11	11.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
12	12.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
13	13.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
14	14.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
15	15.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
16	16.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
17	17.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
18	18.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
19	19.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
20	20.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
21	21.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
22	22.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
23	23.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
24	24.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
25	25.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
26	26.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
27	27.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
28	28.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
29	29.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
30	30.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
31	31.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
32	32.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
33	33.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
34	34.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
35	35.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
36	36.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
37	37.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
38	38.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
39	39.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
40	40.0	砂質土	20.0	0.000	判定外

地点名：飯岡支所
基盤に与える波形：M 9.0, $\alpha_{max}=162gal$
飯岡本震EW基盤波形引き戻し

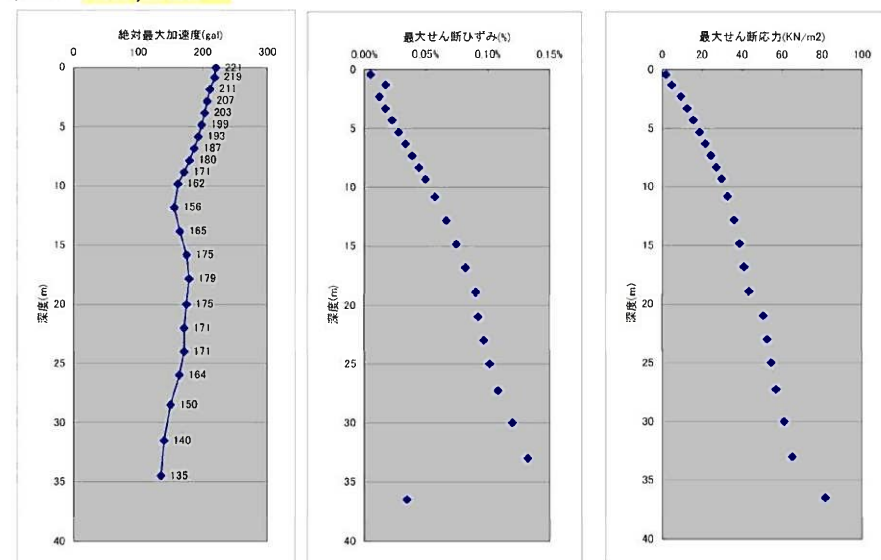
PL = 3.0 Dcy(建築指針) = 1.1 cm Dcy(高圧ガス指針) = 3.6 cm

地点名	飯岡支所	地震計位置	飯岡支所	PL値	3.038	せん断応力：判定深さが含まれる層（中心）の値（注）	判定外
入力波名	IIOKA-EW-base	地盤情報	地盤情報	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	※1 地下水位より上（液状化の可能性は低い）	
基準名	建築基礎構造設計指針	地盤情報	地盤情報	土の単位体積重量	18.0 (kN/m ³)	※2 γ_d/γ_s が0.0以下である（液状化の可能性は低い）	
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	地盤情報	地盤情報	土の単位体積重量	18.0 (kN/m ³)	※3 γ_d/γ_s が0.0以下である（液状化の可能性は低い）	
	γ_d/γ_s の取得、 $\gamma_d/\gamma_s=1.1$ 一定とする	地盤情報	地盤情報	土の単位体積重量	18.0 (kN/m ³)	※4 全土層にまたは有効土層に0.0以下となる層である	
		地盤情報	地盤情報	土の単位体積重量	18.0 (kN/m ³)	地下水位面	1.10 (m)

層	深さ (m)	土質	地盤情報	せん断応力 (kN/m ²)	判定
0	0.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
1	1.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
2	2.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
3	3.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
4	4.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
5	5.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
6	6.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
7	7.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
8	8.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
9	9.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
10	10.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
11	11.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
12	12.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
13	13.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
14	14.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
15	15.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
16	16.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
17	17.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
18	18.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
19	19.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
20	20.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
21	21.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
22	22.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
23	23.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
24	24.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
25	25.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
26	26.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
27	27.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
28	28.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
29	29.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
30	30.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
31	31.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
32	32.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
33	33.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
34	34.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
35	35.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
36	36.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
37	37.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
38	38.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
39	39.0	砂質土	20.0	0.000	判定外
40	40.0	砂質土	20.0	0.000	判定外

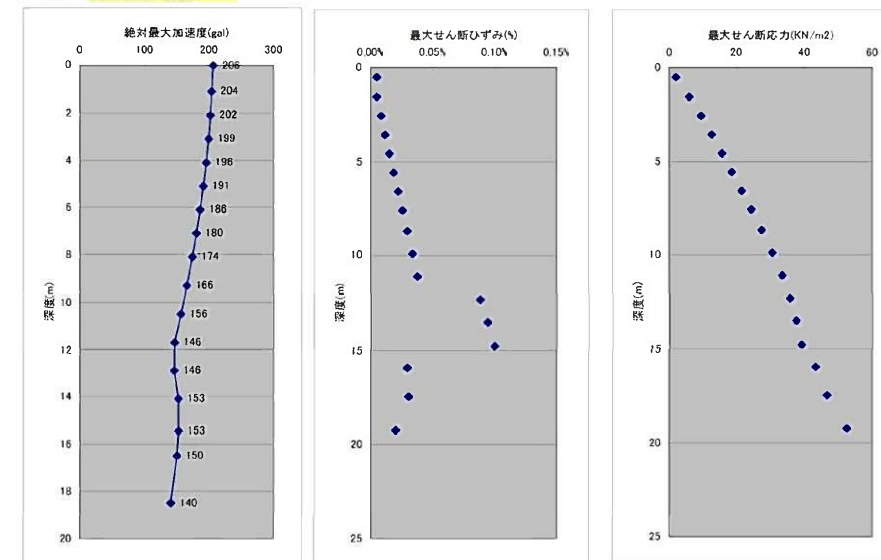
最大応答値深度分布図

ケース ASAHI γNS base



最大応答値深度分布図

ケース IIOKA EW base



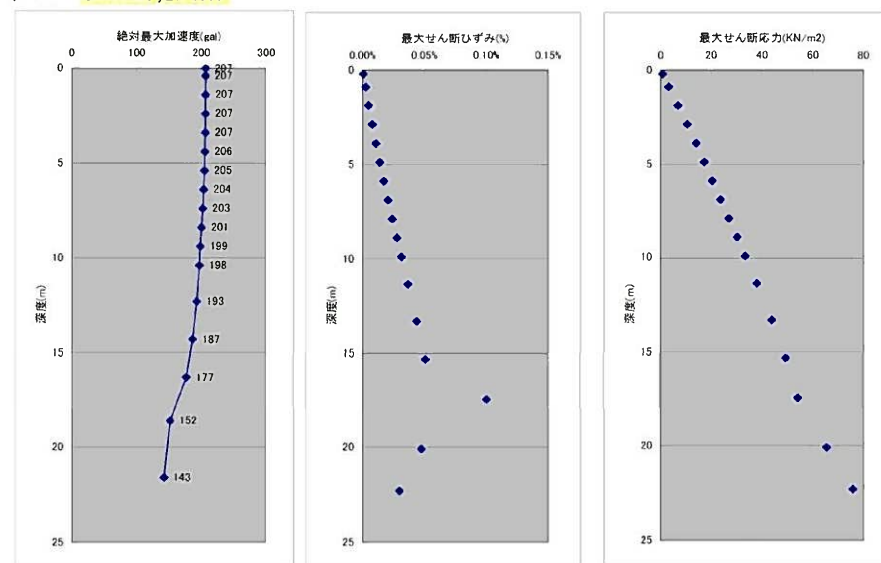
地点名：海上支所
 基盤に与える波形：M 7.7, $\alpha_{max}=173gal$
 海上余震EW基盤波形引き戻し

PL = 0.0 Dcy(建築指針) = 0.0 cm Dcy(高压ガス指針) = 0.3 cm

地点名	地震計位置_海上支所	P1値	0.000	せん断応力：判定深さに含まれる層(中心)の値
入力波名	UNAKAMI-yEW-base	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 判定外
		土載荷重	0.0 (kN/m ²)	※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
基準名	建築基礎構造設計指針	使用加速度	γ = 5 (%)	※2 $\pm d/a' \leq 0.021$ である(液状化の可能性は低い)
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	15秒加速度	196.73 (gal)	※3 Fe=△Mグラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
Fe>50%の取扱い	△N=11一定とする	マニニチュード	7.7	※4 全土載荷または右第土載荷0.0以下となる層である
		補正係数	1.000	地下水位面 0.00(m)

階	階高	土層種類	土 質 特 性										地震応答係数		液状化の判定	
			N	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力
10	3.00	砂質土	22.5	0.000	1.20	18.0	18.0	11.70	23.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	38.5	0.000	2.30	18.0	18.0	29.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	40.5	0.000	2.20	18.0	18.0	27.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	27.0	0.000	1.20	18.0	18.0	28.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	43.0	0.000	2.30	18.0	18.0	47.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	69.0	0.000	3.30	18.0	18.0	56.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	63.0	0.000	2.20	18.0	18.0	65.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	82.0	0.000	3.30	18.0	18.0	74.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	75.0	0.000	3.30	18.0	18.0	83.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	15.0	0.000	1.20	18.0	18.0	15.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
10	3.00	砂質土	15.0	0.000	1.20	18.0	18.0	15.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
	3.00	砂質土	15.0	0.000	1.20	18.0	18.0	15.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	

最大応答値深度分布図
 ケース UNAKAMI yEW base



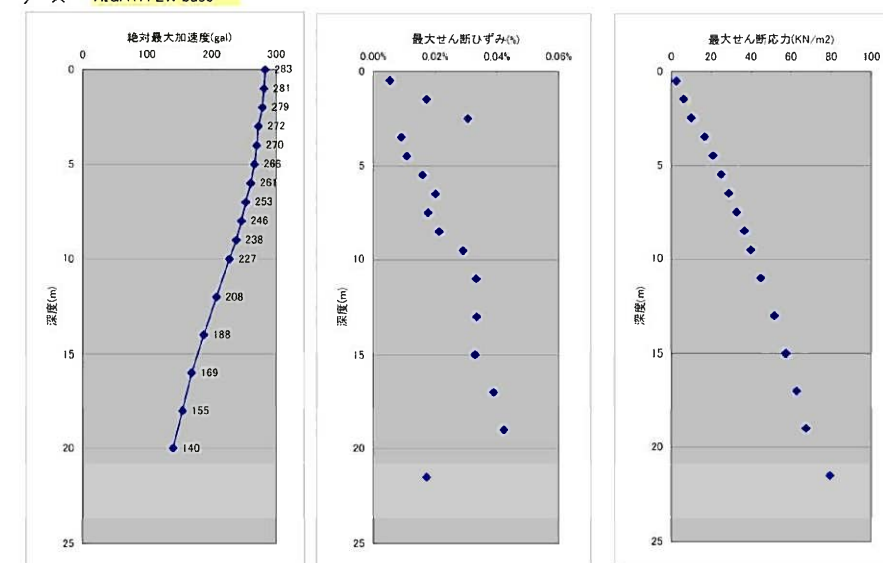
地点名：干潟支所
 基盤に与える波形：M 9.0, $\alpha_{max}=238gal$
 干潟本震EW基盤波形引き戻し

PL = 11.7 Dcy(建築指針) = 2.5 cm Dcy(高压ガス指針) = 8.2 cm

地点名 入力波名		地震計位置_干潟支所 HIGATA-EW-base		P1値 水の単位体積重量		11.722 10.0 (kN/m ³)		せん断応力：判定深さに含まれる層(中心)の値 (注) 判定外	
基準名		建築基礎構造設計指針		土載荷重		9.0 (kN/m ²)		※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)	
判定方法		各層毎のせん断応力と、実測N値		使用材料		9.0 (kN)		※2 $\pm d/a' \leq 0.021$ である(液状化の可能性は低い)	
Fe>50%の取扱い		△M=11一定とする		基礎加速度		133.70 (gal)		※3 Fe>△Mグラフ範囲外(液状化の可能性は低い)	
				マニニチュード		9.0		※4 全土載荷または右第土載荷0.0以下となる層である	
				補正係数		1.000		地下水位面 0.00(m)	

階	階高	土層種類	土質特性										地震応答係数		液状化の判定	
			N	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力	せん断力
1	3.00	砂質土	22.5	0.000	1.20	18.0	18.0	11.70	24.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
2	3.00	砂質土	38.5	0.000	2.30	18.0	18.0	29.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
3	3.00	砂質土	40.5	0.000	2.20	18.0	18.0	27.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
4	3.00	砂質土	27.0	0.000	1.20	18.0	18.0	28.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
5	3.00	砂質土	43.0	0.000	2.30	18.0	18.0	47.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
6	3.00	砂質土	69.0	0.000	3.30	18.0	18.0	56.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
7	3.00	砂質土	63.0	0.000	2.20	18.0	18.0	65.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
8	3.00	砂質土	82.0	0.000	3.30	18.0	18.0	74.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
9	3.00	砂質土	75.0	0.000	3.30	18.0	18.0	83.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
10	3.00	砂質土	15.0	0.000	1.20	18.0	18.0	15.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
11	3.00	砂質土	15.0	0.000	1.20	18.0	18.0	15.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	
12	3.00	砂質土	15.0	0.000	1.20	18.0	18.0	15.70	15.70	15.2	0.000	0.00	0.00	N値	判定	

最大応答値深度分布図
 ケース HIGATA EW base



地点名：旭中央病院
基盤に
与える波形：M 7.7, $\alpha_{\max}=179\text{gal}$
旭余震NS基盤波形引き戻し

PL = 6.2 Dcy(建築指針) = 2.1 cm Dcy(高圧ガス指針) = 4.4 cm

地点名：日の出保育所
 基盤に与える波形：M 7.7, $\alpha_{\max}=179\text{gal}$
 旭余震NS基盤波形引き戻し

PL = 12.5 Dcy(建築指針) = 22.5 cm Dcy(高圧ガス指針) = 8.5 cm

地名	波宮宮城富城城・堀内陸側、中央病院併
人力者	ASHH-yNS-baso
基準名	建築構造設計指針
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値
$F_c > 50\%$ の取扱い	$\Delta N = 11$ 一定とする

圧力値	6.218	せん断応力：判定深さに含まれる層（中心）の値
水の単位体積重量	10.0 (kN/m³)	(注) 判定定
土単位重量	0.0 (kN/m³)	※1 地下水位より上（液状化の可能性は低く、）
使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	※2 $d/u > \gamma$ のみで 0.0 である（液状化の可能性は低い）
長さ増加速度	122.52 (g/s)	※3 $F > \Delta F$ グラフ範囲外（液状化の可能性は低い）
マニチュード	7.0	※4 土表最大または有効土圧が 9.0 以下となる層である
補正係数	1.00	地下水位面 0.00 (m)

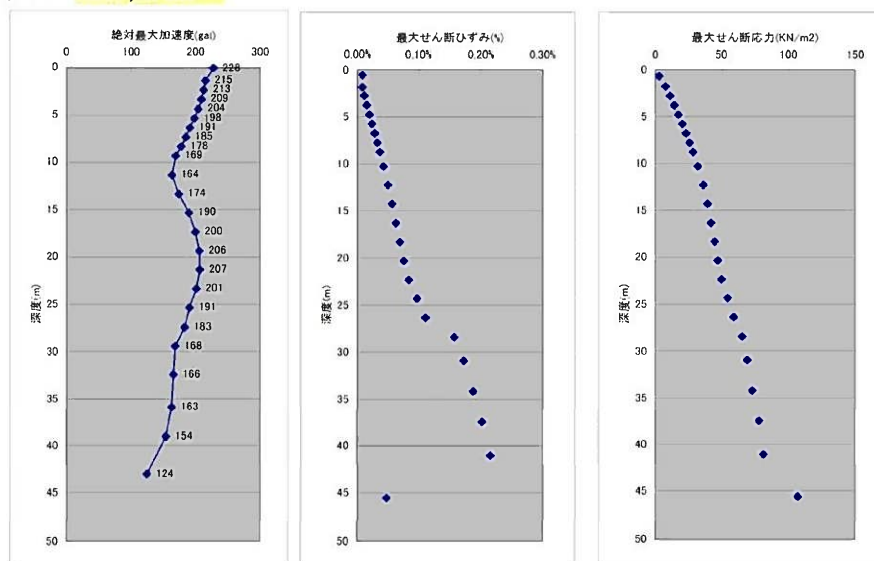
序 号	测 点	层 厚	土 质 性 状	N 值	比 较 特 性										地基承载力 设计值 kPa	是否 判定 合格	备注
					标准 贯入 试验 锤击 值 N _{63.5}	修正 贯入 试验 锤击 值 N ₁₀	标准 圆锥 贯入 试验 阻力 q _{pk}	修正 圆锥 贯入 试验 阻力 q _{pk}	标准 侧压 试验 阻力 p _{1/2}	修正 侧压 试验 阻力 p _{1/2}	标准 十字 贯入 试验 阻力 p _{1/2}	修正 十字 贯入 试验 阻力 p _{1/2}	标准 十字 贯入 试验 阻力 p _{1/2}	修正 十字 贯入 试验 阻力 p _{1/2}			
(a)	(a)	(a)		(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)	(a)
0	1.35													20.0			
	0.20													0.000	1.3		
	1.35	1.35	砂质土	3.0	0.000	1.30	20.0	21.0	11.30	27.20	30.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
	2.35	1.00	砂质土	14.0	0.000	2.70	18.0	19.0	23.80	60.40	5.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
	3.35	1.00	砂质土	29.0	0.000	3.30	18.0	19.0	32.00	65.40	5.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
	4.35	1.00	砂质土	25.0	0.000	4.20	19.0	19.0	41.30	94.40	5.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
	5.35	1.00	砂质土	27.0	0.000	3.30	18.0	19.0	30.00	103.40	5.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
	6.35	1.00	砂质土	26.0	0.000	6.20	18.0	19.0	89.90	122.40	5.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
	7.35	1.00	砂质土	26.0	0.000	7.10	18.0	19.0	88.90	141.40	5.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
30	8.35	1.00	砂质土	29.0	0.000	8.30	18.0	19.0	77.40	160.40	5.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
	9.35	1.00	砂质土	26.0	0.000	9.20	18.0	19.0	86.40	174.40	5.0	0.000	0.00	0.00	N _{63.5}		
	11.35	2.00							18.0	20.0				16.0	2		
														0.000	26.1		
														0.000	26.1		
														0.000	26.1		
														0.000	26.1		
														0.000	26.1		
														0.000	26.1		

地点名	被害家居密集域_旭_砂鉄鉱区
人力波名	JSJH1-γJS-Inoue
基準名	建築基礎構造設計指針
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値
Fe ≥ 50%の取扱い	∠N = 11一定とする

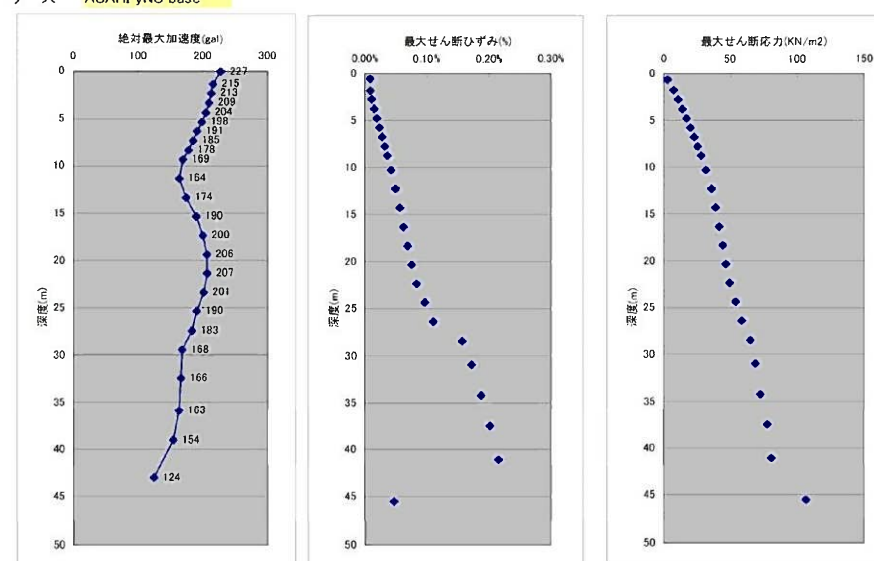
PI値	12.491	せん断力 τ :判定深さに含まれる層(中心)の値
水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 判定外
土質番号	0.0 (kN/m ³)	*01 地下水位より土(液状化の可能性は低い)
使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	*02 $d_{50} < 0.075$ mm以下である(液状化の可能性は低い)
加齢調整度	122.18 (mol)	*03 F_{max} に20%の範囲外(液状化の可能性は低い)
ペグニチュード	7.7	*04 全土載圧または有効土載圧が0.01以上となる層である
補正係数	1.000	地下水位 1.50(m)

[illegible]

最大応答値深度分布図
ケース ASAHI yEW base



最大応答値深度分布図
ケース ASAHI vNS base



地 点 名 : 津波避難タワー
 基盤に
 与える波形: M 9.0, $\alpha_{max}=162gal$
 飯岡本震EW基盤波形引き戻し

PL = 17.9 Dcy(建築指針) = 19.7 cm Dcy(高圧ガス指針) = 15.9 cm

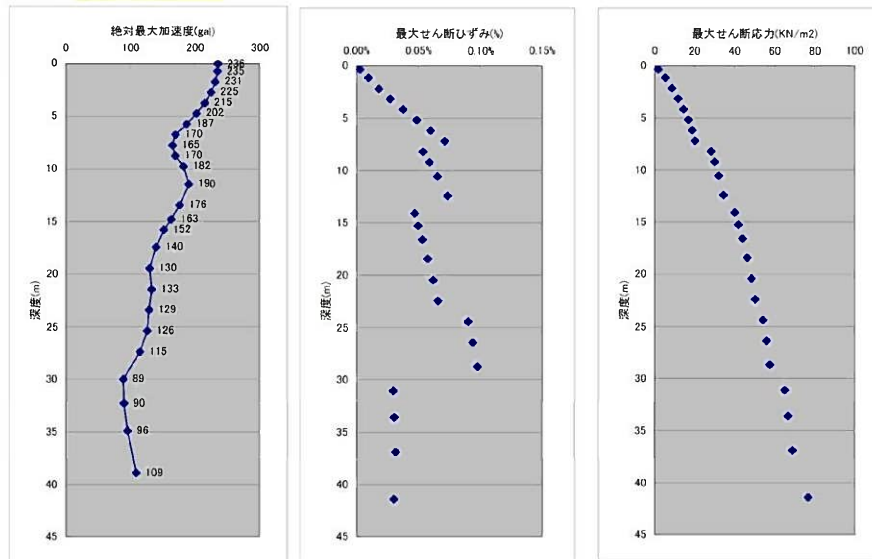
地点名	津波避難タワー	PL値	17.869	せん断応力: 判定値が含まれる層(中心)の値
入力震名	IIOKA-EW-base	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 判定外
基準名	建築基礎構造設計指針	土の単位体積重量	0.0 (kN/m ³)	※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	※2 $d/\sigma'v \leq 0.01$ 以下である(液状化の可能性は低い)
	$\gamma > 50\%$ の取扱い、 $\angle N = 11$ 一定とする	基礎加速度	91.26 (gal)	※3 $Fe \sim \angle N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
		マグニチュード	9.0	※4 全土蔵または有効土蔵圧が0.0以下となる層である
		前正係数	1.000	地下水位面 1.72 (m)

地 点 名 : HB-S-1
 基盤に
 与える波形: M 7.7, $\alpha_{max}=173gal$
 海上余震EW基盤波形引き戻し

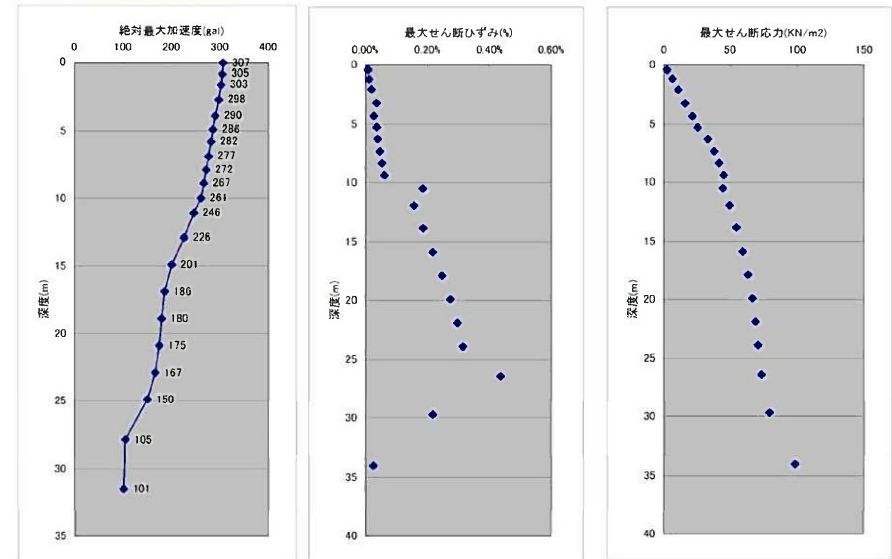
PL = 13.9 Dcy(建築指針) = 7.9 cm Dcy(高圧ガス指針) = 10.4 cm

地点名	HB-S-1	PL値	13.856	せん断応力: 判定値が含まれる層(中心)の値
入力震名	UNAKAMI-yEW-base	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 判定外
基準名	建築基礎構造設計指針	土の単位体積重量	0.0 (kN/m ³)	※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	※2 $d/\sigma'v \leq 0.01$ 以下である(液状化の可能性は低い)
	$\gamma > 50\%$ の取扱い、 $\angle N = 11$ 一定とする	基礎加速度	113.19 (gal)	※3 $Fe \sim \angle N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
		マグニチュード	7.7	※4 全土蔵または有効土蔵圧が0.0以下となる層である
		前正係数	1.000	地下水位面 1.60 (m)

最大応答値深度分布図
 ケース IIOKA EW base



最大応答値深度分布図
 ケース UNAKAMI yEW base



地点名: HB-1

基礎に
与える波形: M 7.7, $\alpha_{max}=173gal$
海上余震EW基盤波形引き戻し

PL = 21.4 Dcy(建築指針) = 31.2 cm Dcy(高圧ガス指針) = 11.8 cm

地点名		HB-1		P.L.値		21.403		せん断応力・相対深さが含まれる層(中心)の値		(注) 判定例	
入力波名		UNAKAMI-yEW-base		水の単位体積重量		10.0 (kN/m ³)		土の単位体積重量		0.0 (kN/m ³)	
基礎名		建築基礎構造設計指針		使用曲線		γ = 5 (%)		**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)		**2 $d/\sigma'_{vm} > 0.01$ 以下である(液状化の可能性は低い)	
判定方法		各層毎のせん断応力と、実測値		基礎加速度		131.98 (gal)		**3 $F_c \sim \Delta N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)		**4 全土層にまたは有効土層に0.0以下となる層である	
Fe>50%の取扱い		$\Delta N=11$ 一定とする		補正係数		1.000		地下水位(m)		1.50(m)	

基盤に
与える波形: M 7.7, $\alpha_{\max}=173\text{gal}$
海上余震EW基盤波形引き戻し

PL = 16.6 Dcy (建築指針) = 27.0 cm Dcy (高圧ガス指針) = 10.8 cm

基盤に
与える波形: M 7.7, $\alpha_{\max}=173\text{gal}$
海上余震EW基盤波形引き戻し

PL = 8.8 Dcy (建築指針) = 7.0 cm Dcy (高圧ガス指針) = 7.6 cm

地点名	III-3
入力波名	UNAKAMI-y&w=buge
基準名	建築基礎構造設計指針
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値
Fe>50%の取扱	$\Delta M=1$ 一定とする

P I 値	16.618
水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)
上載荷重	0.0 (kN/m ²)
使用曲線	$\gamma = 5$ (%)
基盤加圧度	150.14 (gal)
マダニチュード	7.7
補正係数	1.000

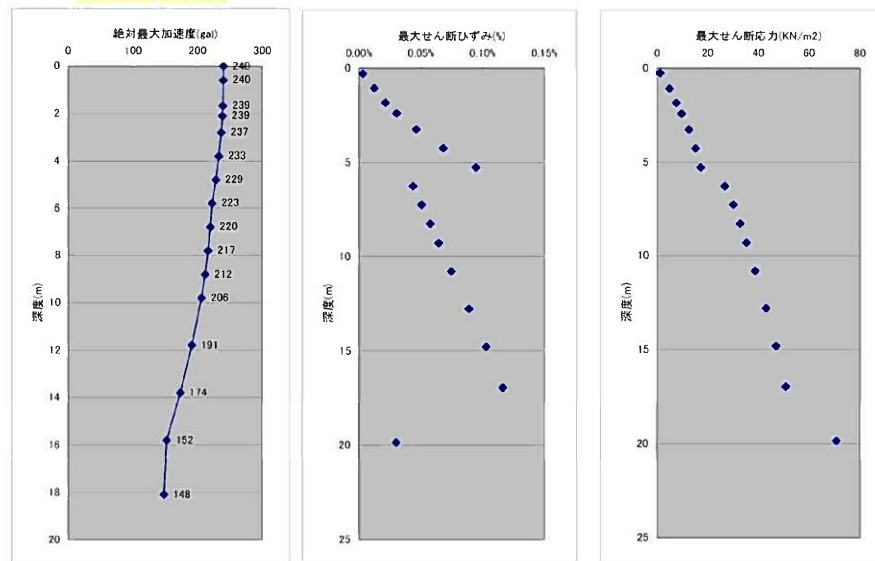
せん断応力：拘定深さが含まれる層（中心）の値
 (注) 拘定外

- ※1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
- ※2 d/σ'_{va} が0.0以下である(液状化の可能性は低い)
- ※3 $F_c \sim \Delta F$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
- ※4 全土載圧または有効土載圧が0.0以下となる層である

地下水位面 1.67 (m)

[illegible]

最大応答値深度分布図
ケース UNAKAMI yE



地点名	UK-1
人力数	UNAKAMI-yfkw-base

基準名	建築基礎構造設計指針
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値
Fe>50%の取扱い	$\Delta N=11$ 一定とする

PL値	8.822
水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)
土被荷重	0.0 (kN/m ²)
使用曲線	$\gamma = 5$ (%)
基盤加速度	128.28 (gal)
マクニチロード	7.7
補正係数	1.000

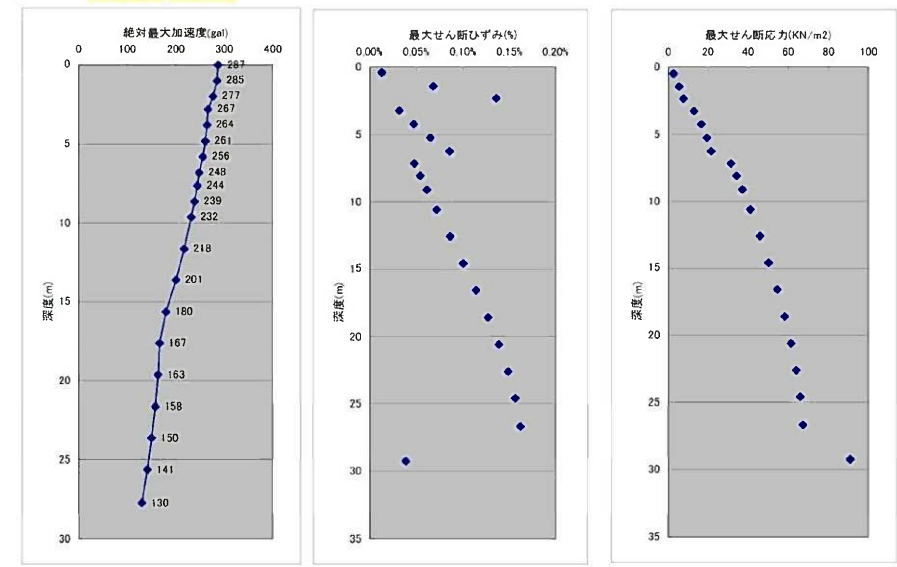
せん断応力：判定要素に含まれる層（中心）の値
(注) 判定外

- ※1 地下水位より土（液状化の可能性は低い）
- ※2 d/σ'_v が 0.0 以下である（液状化の可能性は低い）
- ※3 $F_e \sim \Delta F$ グラフ範囲外（液状化の可能性は低い）
- ※4 全土載圧または有効土載圧が 0.0 以下となる層である

地下水位面：0.97 (m)

[illegible]

最大応答値深度分布図
ケース UNAKAMI yEW base



地点名: HA-1
 基盤に与える波形: M 9.0, $\alpha_{max}=162gal$
 飯岡地震EW基盤波形引き戻し

PL = 9.7 Dcy(建築指針) = 13.9 cm Dcy(高压ガス指針) = 6.4 cm

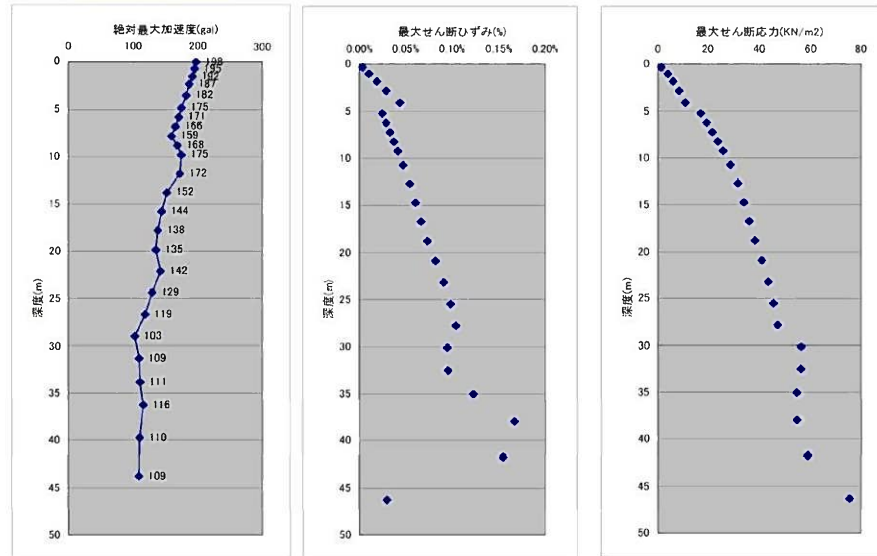
地点名	HA-1	PL値	9.740	せん断応力: 判定深さが含まれる層(中心)の値
入力波名	IIOKA-EW-base	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 判定系
基盤名	地盤基礎構造設計指針	土の単位体積重量	0.0 (kN/m ³)	**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	**2 d/σ'_{v0} が0.0以下である(液状化の可能性は低い)
Fe>50%の取扱い	$\angle N = 11$ 一定とする	基盤加速度	108.03 (gal)	**3 Fe< $\angle N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
		マグニチュード	9.0	**4 全土域にまたは有効土域に0.0以下となる層である
		補正係数	1.000	地下水位面 2.30 (m)

地点名: HA-2
 基盤に与える波形: M 9.0, $\alpha_{max}=162gal$
 飯岡地震EW基盤波形引き戻し

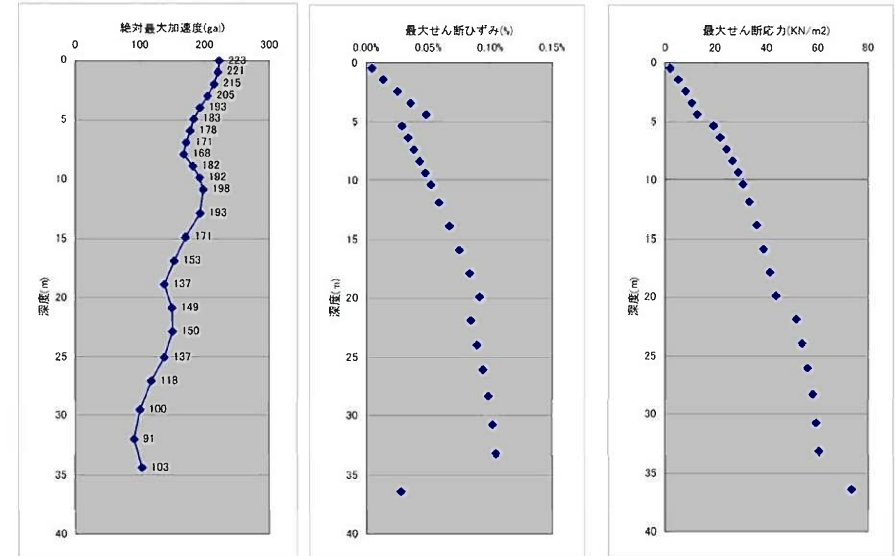
PL = 5.9 Dcy(建築指針) = 7.6 cm Dcy(高压ガス指針) = 3.2 cm

地点名	HA-2	PL値	5.880	せん断応力: 判定深さが含まれる層(中心)の値
入力波名	IIOKA-EW-base	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 判定系
基盤名	地盤基礎構造設計指針	土の単位体積重量	0.0 (kN/m ³)	**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	**2 d/σ'_{v0} が0.0以下である(液状化の可能性は低い)
Fe>50%の取扱い	$\angle N = 11$ 一定とする	基盤加速度	104.81 (gal)	**3 Fe< $\angle N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
		マグニチュード	9.0	**4 全土域にまたは有効土域に0.0以下となる層である
		補正係数	1.000	地下水位面 2.50 (m)

最大応答値深度分布図
 ケース IIOKA EW base



最大応答値深度分布図
 ケース IIOKA EW base



地点名: NK-1

基盤に
与える波形: M 7.7, $\alpha_{max}=179gal$
旭余震NS基盤波形引き戻し

PL = 6.9 Dcy(建築指針) = 3.1 cm Dcy(高压ガス指針) = 3.8 cm

地点名 NK-1
入力表名 ASAH1-yNS-base

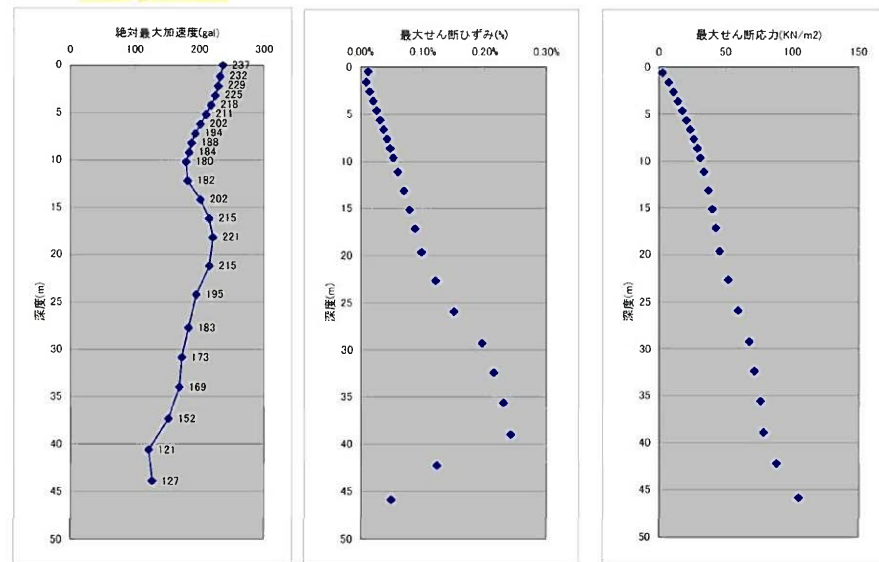
基盤名 建築基礎構造設計指針
判定方法 各層毎のせん断応力と、実測N値
補正係数 $\Delta N=11$ 一定とする

P1値 6.872
水の単位体積重量 10.0 (kN/m³)
土載荷重 0.0 (kN/m²)
使用曲線 $\gamma = 5$ (%)
基礎加速度 135.63 (gal)
マグニチュード 7.7
補正係数 1.000

せん断応力・判定深さが含まれる層(中心)の値
(注) 判定外
**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
**2 $\pm d/a' < 0.0$ 以下である(液状化の可能性は低い)
**3 $Fe \sim \Delta N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
**4 全土載荷または有効土載荷が0.0以下となる層である
地下水位面 1.20 (m)

階 数	深 さ (m)	土 層 種 別	N 値	土 質 特 性										地盤応力の判定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
				鉛直 応力 (kN/m ²)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	最大 せん断 応力 (kN/m ²)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
0	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

最大応答値深度分布図
ケース ASAH1 yNS base



地点名: JG-S-1

基盤に
与える波形: M 7.7, $\alpha_{max}=179gal$
旭余震NS基盤波形引き戻し

PL = 4.4 Dcy(建築指針) = 9.7 cm Dcy(高压ガス指針) = 5.9 cm

地点名 JG-S-1
入力表名 JSJH1-yNS-base

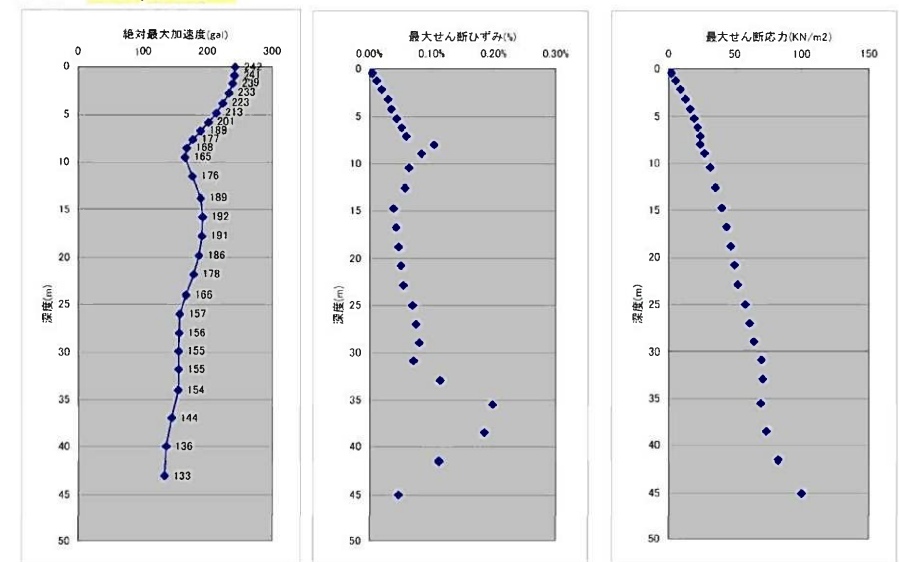
基盤名 建築基礎構造設計指針
判定方法 各層毎のせん断応力と、実測N値
補正係数 $\Delta N=11$ 一定とする

P1値 4.485
水の単位体積重量 10.0 (kN/m³)
土載荷重 0.0 (kN/m²)
使用曲線 $\gamma = 5$ (%)
基礎加速度 133.35 (gal)
マグニチュード 7.7
補正係数 1.000

せん断応力・判定深さが含まれる層(中心)の値
(注) 判定外
**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
**2 $\pm d/a' < 0.0$ 以下である(液状化の可能性は低い)
**3 $Fe \sim \Delta N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
**4 全土載荷または有効土載荷が0.0以下となる層である
地下水位面 1.70 (m)

階 数	深 さ (m)	土 層 種 別	N 値	土 質 特 性										地盤応力の判定										設計上の判定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
				最大 せん断 応力 (kN/m ²)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	最大 せん断 応力 (kN/m ²)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)	埋 込 深 さ (m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

最大応答値深度分布図
ケース ASAH1 yNS base



地点名: NH-S-1
 基礎に与える波形: M 7.7, $\alpha_{max}=179gal$
 旭余震NS基盤波形引き戻し

PL = 0.8 Dcy(建築指針) = 4.3 cm Dcy(高圧ガス指針) = 3.5 cm

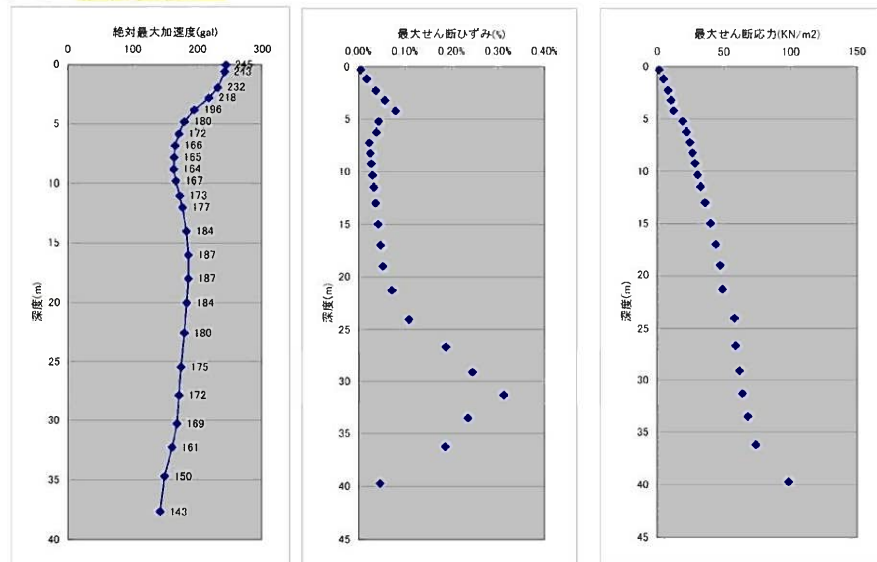
地点名	NH-S-1	1F土質	0.854	せん断応力: 割定深さが含まれる層(中心)の値
人力表名	ASAHI-yNS-base	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 割定深
基準名	建築基礎構造設計指針	土蔵荷重	0.0 (kN/m ²)	**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
指定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	使用曲線	$\gamma = 2$ (%)	**2 $\pm d/\sigma'v$ が0.0以下である(液状化の可能性は低い)
Fe>50%の取扱い	$\angle NF=11$ 一定とする	基礎加速度	132.42 (gal)	**3 Fe~2Nグラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
		マジンニチュード	2.7	**4 全土蔵圧または有効土蔵圧が0.0以下となる層である
		補正係数	1.000	地下水位面 1.91 (m)

地点名: AH-1
 基礎に与える波形: M 7.7, $\alpha_{max}=179gal$
 旭余震NS基盤波形引き戻し

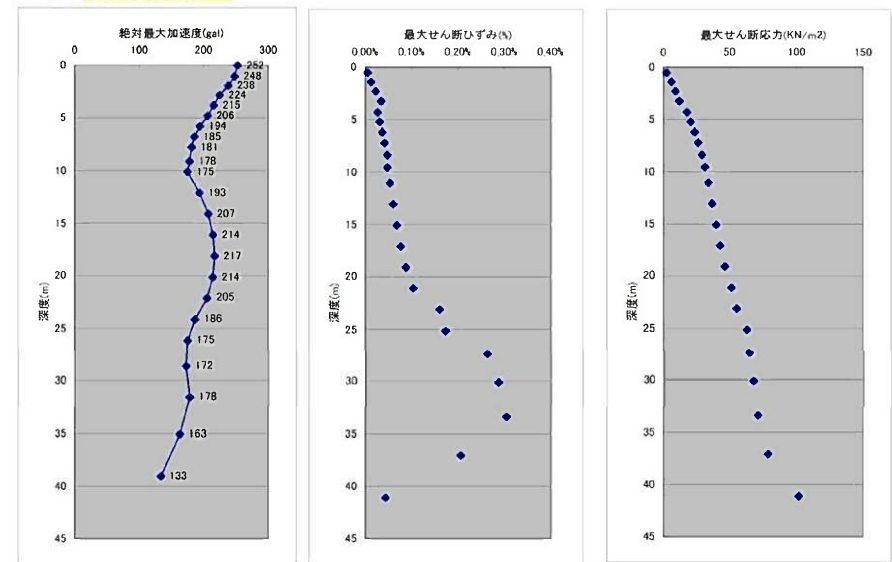
PL = 6.0 Dcy(建築指針) = 3.7 cm Dcy(高圧ガス指針) = 6.4 cm

地点名	AH-1	1F土質	0.618	せん断応力: 割定深さが含まれる層(中心)の値
人力表名	ASAHI-yNS-base	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 割定深
基準名	建築基礎構造設計指針	土蔵荷重	0.0 (kN/m ²)	**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
指定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	**2 $\pm d/\sigma'v$ が0.0以下である(液状化の可能性は低い)
Fe>50%の取扱い	$\angle NF=11$ 一定とする	基礎加速度	131.70 (gal)	**3 Fe~2Nグラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
		マジンニチュード	2.7	**4 全土蔵圧または有効土蔵圧が0.0以下となる層である
		補正係数	1.000	地下水位面 1.05 (m)

最大応答値深度分布図
 ケース ASAHI yNS base



最大応答値深度分布図
 ケース ASAHI yNS base



地点名：SN-S-1
 基盤に
 与える波形： M 9.0, $\alpha_{max}=162gal$
 福岡本震EW基盤波形引き戻し

PL = 4.4 Dcy(建築指針) = 14.9 cm Dcy(高圧ガス指針) = 8.3 cm

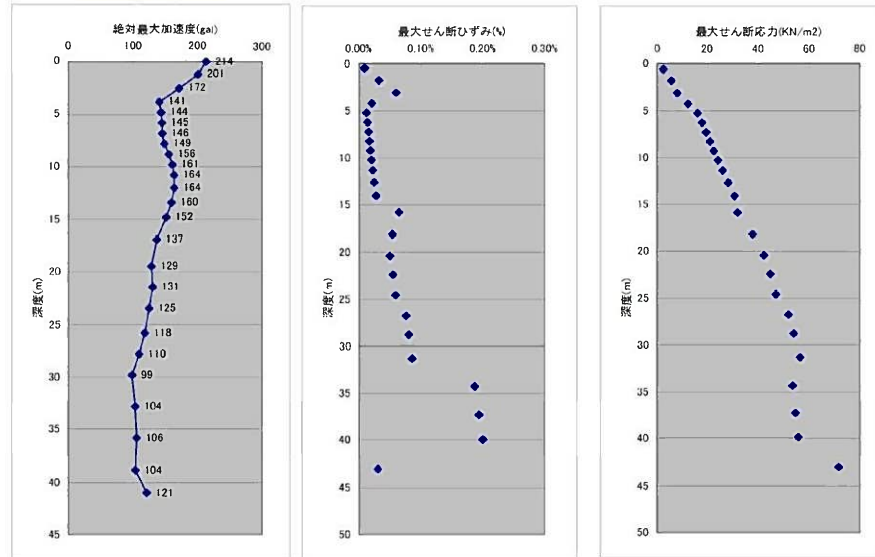
地点名	SN-S-1	PL値	4.30	せん断応力：判定値が含まれる層（中心）の値
人力姓名	IIOKA-EW-base	(注) 判定外		(注) 判定外
基準名	建築基礎構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	地下水位より上(液状化の可能性は低い)
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	土壌密度	0.0 (kN/m ³)	**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
FC>50%の取扱い	FC>50%の取扱い	使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	**2 $d/u' < 0.0$ 以下である(液状化の可能性は低い)
		基礎加速度	107.35 (gal)	**3 $FC \sim \Delta N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
		マグニチュード	9.0	**4 全土域にまたは有効土域に0.0以下となる層である
		補正係数	1.000	地下水位面 1.20 (m)

地点名：SN-S-2
 基盤に
 与える波形： M 9.0, $\alpha_{max}=162gal$
 福岡本震EW基盤波形引き戻し

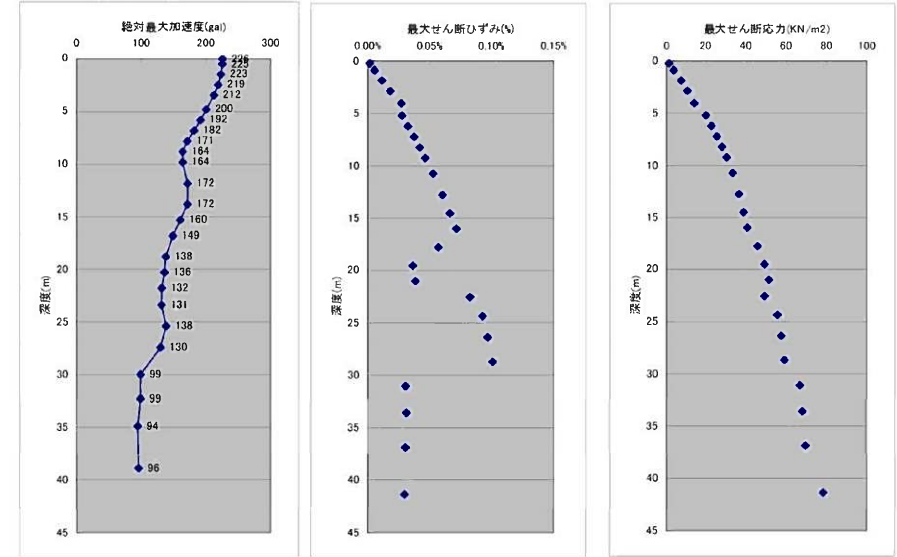
PL = 7.2 Dcy(建築指針) = 2.4 cm Dcy(高圧ガス指針) = 9.1 cm

地点名	SN-S-2	PL値	7.180	せん断応力：判定値が含まれる層（中心）の値
人力姓名	IIOKA-EW-base	(注) 判定外		(注) 判定外
基準名	建築基礎構造設計指針	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	地下水位より上(液状化の可能性は低い)
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	土壌密度	0.0 (kN/m ³)	**1 地下水位より上(液状化の可能性は低い)
FC>50%の取扱い	FC>50%の取扱い	使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	**2 $d/u' < 0.0$ 以下である(液状化の可能性は低い)
		基礎加速度	98.01 (gal)	**3 $FC \sim \Delta N$ グラフ範囲外(液状化の可能性は低い)
		マグニチュード	9.0	**4 全土域にまたは有効土域に0.0以下となる層である
		補正係数	1.000	地下水位面 1.15 (m)

最大応答値深度分布図
 ケース IIOKA EW base



最大応答値深度分布図
 ケース IIOKA EW base



基盤に
与える波形: M 9.0, $\alpha_{\max}=162\text{gal}$
飯岡本震EW基盤波形引き戻し

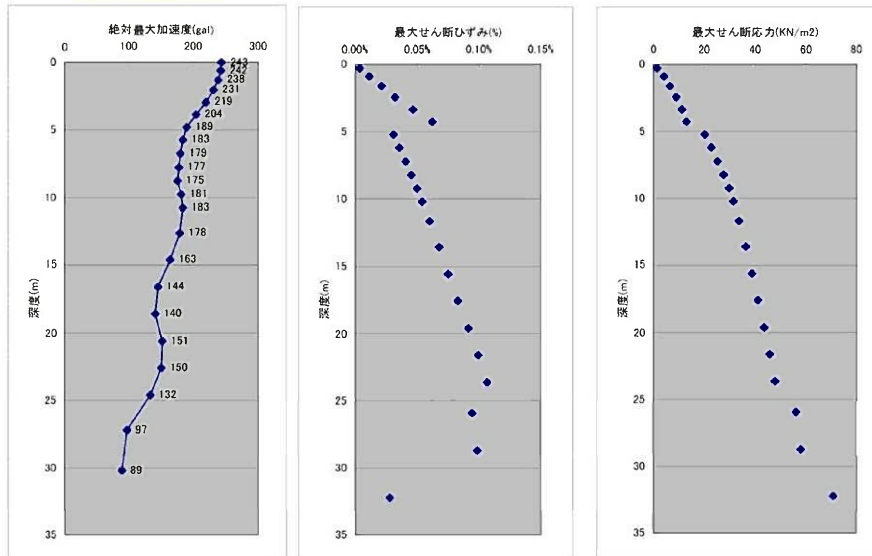
PL = 13.1 Dcy(建築指針) = 18.8 cm Dcy(高圧ガス指針) = 8.1 cm

基盤に
与える波形: $M 9.0, \alpha_{\max}=162\text{gal}$
飯岡本震EW基盤波形引き戻し

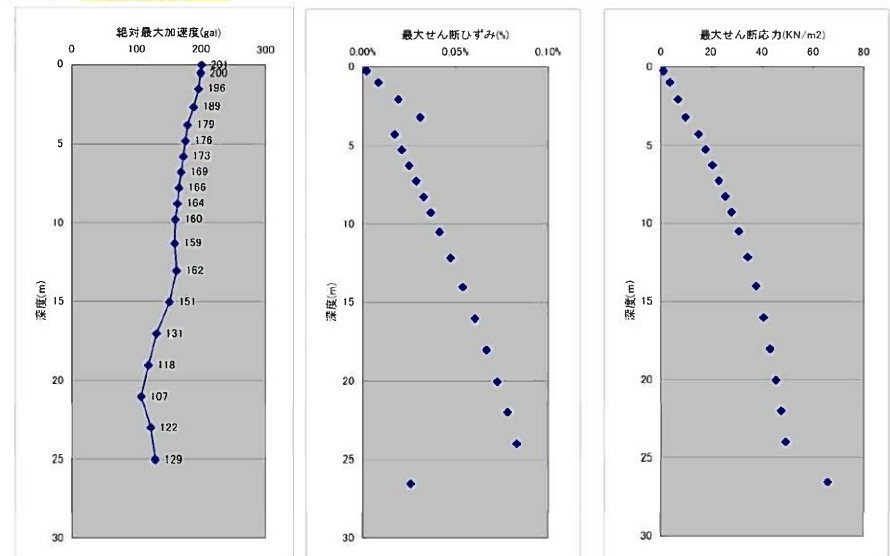
PL = 2.9 Dcy(建築指針) = 2.6 cm Dcy(高圧ガス指針) = 3.1 cm

[illegible][illegible]

最大応答値深度分布図
ケース II OKA EW base



最大応答値深度分布図
ケース IIOKA EW base



地点名：HG-S-I
 基礎に
 与える波形：M 9.0, $\alpha_{max}=238gal$
 干潟本震EW基礎波形引き戻し

PL = 11.0 Dcy(建築指針) = 7.2 cm Dcy(高圧ガス指針) = 13.2 cm

地点名	HG-S-I	PL値	10.986	せん断応力：判定深さに含まれる層（中心）の値
入力波名	HIGATA-EW-base	水の単位体積重量	10.0 (kN/m ³)	(注) 固定係
		土最重量	0.0 (kN/m ³)	***1 地下水位より土の液状化の可能性は低い
基礎名	建築基礎構造設計指針	使用曲線	$\gamma = 5$ (%)	***2 $\gamma < 5$ の場合、0.01以下である液状化の可能性は低い
判定方法	各層毎のせん断応力と、実測N値	基礎加速度	132.22 (cm/s ²)	***3 $\gamma < 5$ の場合、0.01以下である液状化の可能性は低い
判定深さ	$\Delta N = 50\%$ の深さ	バネモード	9.6	***4 全土層圧または有効土層圧が0.0以下となる層である
		補正係数	1.000	地下水位面 0.94 (m)

土 質 特 性														地盤応答係数										せん断力の算定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
深さ (m)	土質 分類	土質 記号	N値 (blows/30cm)	せん断力					せん断変形係数					せん断変形係数					せん断変形係数					せん断力 (kN/m ²)	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数	せん断変形係数

最大応答値深度分布図
 ケース HIGATA EW base

